

## 調 査 活 動 実 績

氏 名 三石 文隆

令和 7 年度の政務調査に関する主な活動の実施状況は、次のとおりであります。

- 1 教育の質的向上、教育の振興に関する調査研究等
- 2 南海トラフ地震対策に関する調査研究等
- 3 地方創生・デジタル化の推進に関する調査研究
- 4 行財政改革に関する調査研究等
- 5 健康政策に関する調査研究
- 6 福祉政策に関する調査研究
- 7 産業の振興等に関する調査研究等
- 8 陸、海、空の交通基盤の充実にに関する調査研究
- 9 観光振興の推進に関する調査研究等
- 10 文化芸術の振興、文化財の保存と有効活用に関する調査研究等
- 11 中山間地域の活性化、基盤整備に関する調査研究等
- 12 高速道路や地方道の財源確保に関する勉強会、地域の道路ネットワーク整備等に関する調査研究
- 13 雇用の確保に関する調査研究
- 14 少年非行防止対策、交通安全対策に関する調査研究
- 15 国際交流・文化交流促進に関する調査研究
- 16 その他の県政全般の課題に関する調査研究

調査項目は以上であります。政策の重要性に鑑み、次の事項について重点的に調査を行いましたので、その概要を報告します。

## ○ 教育の充実について

県教育委員会は、「第3期教育等の振興に関する施策の大綱」及び「第4期高知県教育振興基本計画」を基にして、「きらっと いきいき あったかい『高知家』の教育」を目指し、確かな学力の育成と自己の将来とのつながりを見通した学びの展開、健やかな体の育成と基本的な生活習慣の定着などを目標に、PDCAサイクルによる進捗管理を徹底しながら、様々な施策を実行しています。

そうした中、令和7年度は、企業や産業の現場を小中学生が見学・体験し高知の仕事について学ぶ体験ツアーなど、地域への理解と愛着を育むキャリア教育を推進しました。また、市町村における県立高等学校の生徒数確保に向けた取組への支援などを強化しているところです。こうした取組によって地域と学校の連携が強化され、また児童・生徒の学習意欲につながるなど着実に成果を上げています。

しかしながら、令和7年度の全国学力・学習状況調査によると、中学校の数学では全国との差が昨年よりさらに広がり、確かな学力の定着には至っていません。また、いじめの重大事態が依然として発生していることや、不登校の出現率が増加傾向にあることなど、安心して学べる環境づくりにおいても、まだまだ課題が残されています。

こうした状況を踏まえ、子どもたちの心の声、教員の情熱、保護者の思い、そして地域の知恵を丁寧に拾い上げ、教育委員会や学校現場の関係の皆さん、保護者の皆さんと精力的に意見交換を重ねてきました。これまでの経験や意見交換で得られた知見に基づき、課題解決に向けた具体的な要請・提言を行うことで、改善を図ってきました。

今後も、目まぐるしく変化する世界の中で、子どもたち一人一人が生き抜く力を身につけられるよう、県教育委員会に対し様々な場面で教育の充実に関する意見を述べ、本県教育のさらなる発展のために貢献してまいります。

## ○ 人口減少対策について

本県の将来を左右する人口減少問題は県政の最重要課題です。この解決に向けて、本県は、「高知県元気な未来創造戦略」に基づき、若者や女性に選ばれる高知を実現するため全力で取り組んでいます。加えて、効率的で持続可能な社会と県民生活の質の向上を図ることを目指し、「賢く縮む『4Sプロジェクト』」の推進にも注力しています。

こうした中、教育分野における人口減少対策に焦点を当て、中山間地域における遠隔教育による教育機会の確保、特色ある部活動の推進、そして県外からの生徒の受入れ拡大などについて、関係各所へ要請・提言を行ってまいりました。

今後も調査研究を継続し、必要に応じて意見を述べることで、本県教育のさらなる発展と人口減少の克服に向けて貢献してまいります。

## ○ インフラの充実・有効活用について

本県では、頻発化・激甚化する自然災害から県民の生命・財産を守るため、インフラ整備や南海トラフ地震などの大規模災害対策に全力で取り組んでいます。

こうした県の取組と並行し、インフラ整備の加速化と推進に向け、具体的に提言を行ってまいりました。特に、四国8の字ネットワークや県都を守る浦戸湾の三重防護の整備、さらに観光や産業、中山間地域の暮らしを支える道路整備など、多岐にわたるインフラ整備の重要性について意見を述べてまいりました。

今後も、全国と比較して遅れている本県の道路網の早期整備や、その適正な維持管理のあり方など、さらなるインフラの充実・有効活用を図るべく、調査研究を進めてまいります。